



県立三好病院

平成 24 年 3 月・4 月号



今の特集：狭心症について

高層棟新築イメージ図(平成 26 年度オープン予定)



平成 26 年度中の開院を目指し、平成 24 年 4 月より高層棟改築のための工事が始まります。新高層棟は現在の外来駐車場に建設するため、工事期間中は仮設外来駐車場をご利用いただくことになり、大変ご不便をおかけいたします。また工事車両の往来や騒音など、患者様をはじめ地域住民の皆様にはご迷惑をおかけいたしますがよろしくお願いいたします。

臨時看護師募集

県立三好病院では臨時看護師、臨時准看護師を随時募集しています。
詳しくは県立三好病院看護局(内線 243)まで

～県立病院事業基本理念～

県民に支えられた病院として

県民医療の最後の砦となる

発行 徳島県立三好病院 広報委員会

〒778-8503 徳島県三好市池田町シマ 815-2

TEL 0883-72-1131 FAX 0883-72-6910

HP <http://www.tph.gr.jp/~miyoshi/>

狭心症について

循環器内科 奥村 宇信

狭心症とはどんな病気か

心臓の栄養血管である冠動脈の血流が不足することによって、心臓の筋肉(心筋)が酸素不足に陥ります。そのために胸痛・胸部圧迫感などの症状が起こることを狭心症といいます。

原因は何か

心臓の筋肉に十分な血流・酸素が送り込めなくなる原因には二つのパターンがあります。一つは血管内腔が狭くなる動脈硬化によるもの、もう一つは血管が一過性に収縮を起こして縮んでしまう(冠攣縮)のパターンです(図1)。

動脈硬化の原因の大多数は、喫煙、糖尿病、脂質異常症(高脂血症)、高血圧、肥満などに引き続いて起こります。冠攣縮の原因は、喫煙、不眠、ストレス、飲酒によって起こります。

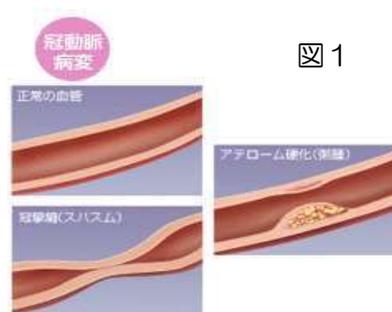


図1

症状の現れ方

代表的な発作の症状としては、胸が痛い、胸がしめつけられる・押さえつけられる、胸が焼けつくような感じ、などがあります。時には上腹部(胃のあたり)や背中、のどの痛み、歯の痛み、左肩から腕にかけてのしびれ・痛みとして感じることもあります。チクチクする、針で刺されるような痛み、などの一点の狭い範囲ではなく、手のひらをあてるほどの範囲に起こる事が多いです。糖尿病の患者さんは、病変の重症度に比べて、症状を軽く感じる事が多く、注意が必要です。

狭心症の種類

狭心症の種類には、労作性狭心症と安静時狭心症の2種類あります。労作性狭心症とは、運動したり興奮したりすることで心臓に負担がかかると胸痛が起こる狭心症です。これは心臓が激しく動いて血液を多く必要としても、動脈硬化のため血液を思うように送れず症状が起こるものです。一方、安静時狭心症とは座っている時や寝ている時などの安静時に突然発作が起きるものをいいます。冠攣縮性狭心症や不安定狭心症が当てはまります。不安定狭心症とは、血管が血栓(血の塊)で閉塞しかけており、心筋梗塞へと進展する可能性の高い状態です。



検査と診断



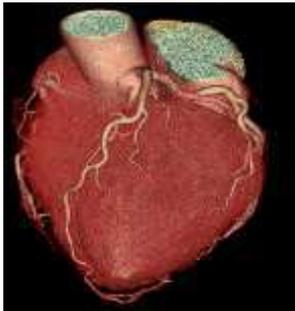
- 心電図：発作時に異常を認めることができますが、安静時では正常なことも多くあります。
- 運動負荷心電図：階段昇降(マスター法)、ランニングマシン(トレッドミル法)などの負荷をかけた後に心電図をとります。

c. **心臓CT検査**：造影剤を静脈から注入し、冠動脈の状態を撮影します。高性能のCTでは、数秒以内で心臓全体の画像を取得することができ、検査の為に準備の時間を入れて15分～20分程度で終了します。外来で検査することができます。

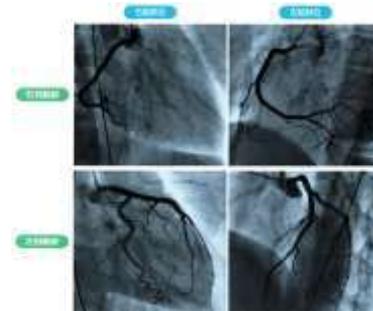
d. **心臓カテーテル検査(冠動脈造影)**：心臓の血管狭窄の有無等を確認する為に、手首や大腿部より、数mm程度のカテーテルと呼ばれる主にナイロン製のチューブを、大動脈を経由して心臓の冠動脈に留置し、造影剤を注入して冠動脈の狭窄等の異常を検査する、また冠動脈を造影しながら冠攣縮の誘発を確認します。

上記の検査で異常が疑われた時に行う検査で、後述の経皮的冠動脈形成術、冠動脈バイパス手術などを行う際には必須の検査で有り、1～2泊程度の入院が必要となります。

心臓CT検査(正常な冠動脈)



心臓カテーテル検査(正常な冠動脈)



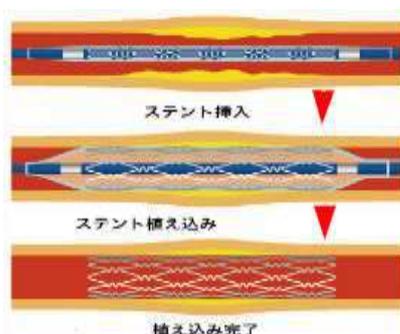
治療の方法

冠攣縮性狭心症は薬でコントロールする事ができますが、いったん起こった動脈硬化を元通りに治すということは現時点ではまだ不可能です。ですから、今後動脈硬化がこれ以上進行しないように最大限努力する、ということが治療の大前提になります。そのためには高血圧・高脂血症・糖尿病などを治療し、さらに禁煙・体重増加の抑制・適当な運動を行なうことが最も重要です。いまある動脈硬化の治療には二つの治療法(冠動脈インターベンションと冠動脈バイパス術)があります。

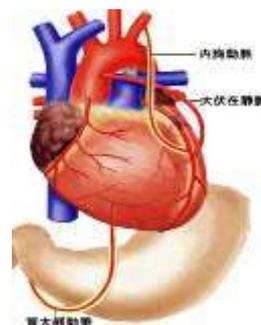
冠動脈インターベンション：心臓カテーテル検査と同様に細い管を冠動脈の入口に固定したあと、ステントという金属でできた網状の筒を狭窄部にもっていき、血管内側のプラーク(脂肪が沈着してつくった盛り上がり)を押し広げる治療法です。これらの治療法は、後述のバイパス術と比べて患者さんへの負担が少なく、順調であれば術後数日で退院することができます。しかし、約10～20%の患者さんは数カ月の間に血管内腔が再び狭くなる(再狭窄)ことがあり、何度も治療を繰り返したり、バイパス手術を行うケースもあります

冠動脈バイパス手術：最近では、明仁天皇が受けられた手術です。全身麻酔下で開胸し、狭くなった血管の先に他の部位の血管(グラフト)をつなぐ手術です。グラフトとしては、内胸動脈などの動脈や大伏在(だいふくざい)静脈(足の静脈)が使われています。

冠動脈インターベンション



冠動脈バイパス術



DPCによる入院医療費請求開始のお知らせ

三好病院は、平成24年4月1日からDPC対象病院となり、原則として、一般病床の入院患者さんの入院医療費の計算方法が変わります。どんな制度なのかについてご説明します。

【DPCとは】

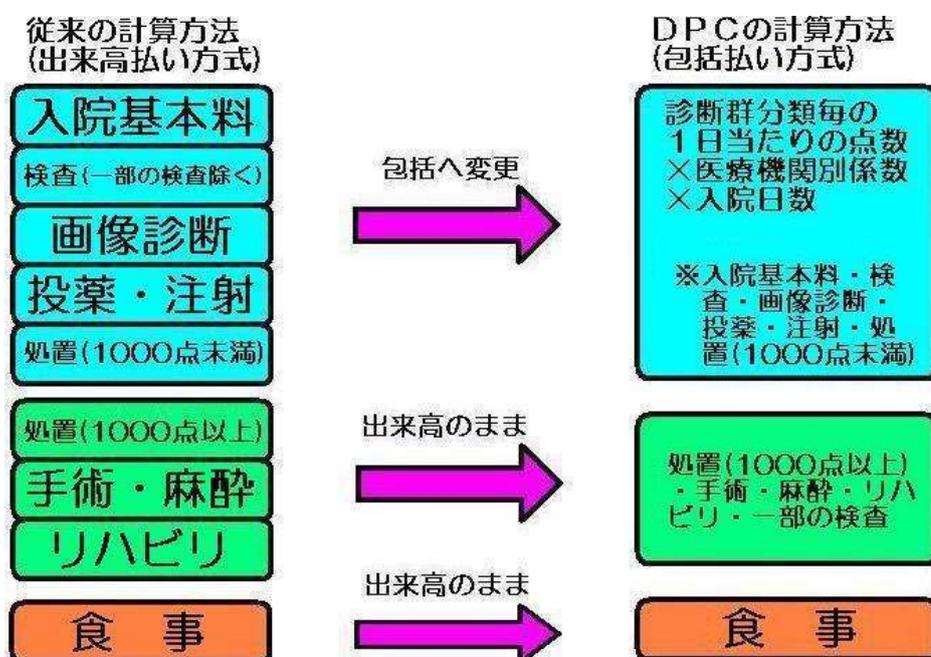
ダイアグノーシス プロシージャ コンビネーション

DPCとは、「Diagnosis Procedure Combination」の略称で、「診断群分類」を意味します。入院期間中に医療資源を最も投入した「傷病名」と、入院期間中に提供される手術・処置・化学療法等の「診療行為」の組み合わせにより分類されたものを言います。

DPCによる診療報酬の請求は、国の政策として急性期医療を担う病院を対象として推進されています。平成23年4月現在、DPC対象病院は1,449病院となっております。徳島県立病院では、平成18年度から中央病院、平成21年度から海部病院がDPC対象病院となっております。

【DPCによる入院医療費の計算方法】

これまでは、検査・投薬等の診療行為毎に入院医療費を計算する「出来高払い方式」でした。DPC対象病院となると、1日当たりの定額を基本に入院日数に応じ入院医療費（診断群分類毎の1日当たりの点数×医療機関別係数×入院日数）を計算する「包括払い方式」となります。



外来医療費は、これまでどおり「出来高払い方式」で計算します。

詳しい事につきましては、医事課にお問い合わせください。新計算方法への御理解と御協力をお願いいたします。

御意見・御要望がございましたら、ホームページ、または院内御意見箱までお願いします。広報バックナンバーは、ホームページにて御覧になれます。